



## 平和学習授業づくり交流会、開催される！①

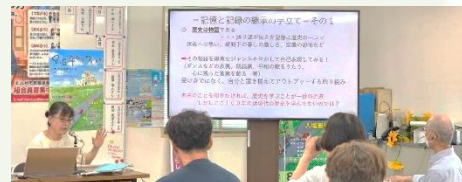
6月13日、教育会館で平和教育学習会が行われました。講師は「聞き書きボランティア平野塾」で活動されている出口敬子さんです。出口さんは34年間教員として活躍し、その間も平和教育に力を注いで来られました。今回は出口さんの平和教育に対する思いを語っていただきました。



「平野塾」について

「平野塾」は大きく3つの活動を行っています。一つ目は聞き書き活動です。体験者が語る言葉を記憶遺産ととらえ、聞き書きの手法で今までに4冊の証言集を発行してきました。二つ目は語り部派遣活動です。北九州市はもちろん近隣の市町村にも語り部さんを派遣。※北九州ESD協議会出前講座にも登録しているので、申し込めば講師料など無料で招待できます。三つ目は平和を願う個人や団体との交流活動です。開催する八幡大空襲の慰霊祭には年々参加者が増えてきました。また毎月第3土曜日平野市民センターで開催される「八文字カフェ」では、様々な年代の人々が集い、戦争や平和について語り合っています。「語らなかつたら無かつたことにされる」「二度とあのような時代を繰り返すな」年長者のメッセージは若い世代の意識変革につながっています。

(※「市民・学校・企業・大学・行政が力を合わせて、持続可能な社会をつくるための学び(ESD)を進めるネットワーク組織、学校だけではできない平和・環境・人権・地域づくりの学習を、地域全体で支えるための協議会」)



### 「花尾小での取組」

八幡東区花尾小学校へは、2017年から毎年語り部の派遣を行ってきました。(コロナ禍で一時的に中止)花尾小は平野塾が結成される以前より、1年生から6年生まで各学年ごとに地域に住んでいる戦争体験者が当時の生活体験を地域の子どもに話してきた歴史があります。そんな積み重ねが生かされたお話を一つ紹介します。

Aさんは、花尾小学校に通った6年間、毎年夏になると地域の方々から、自分が生まれるずっと前にこの地で起きた戦争の悲劇について聞いていました。その経験と記憶は、大学生となり教員免許取得のために中学校で教育実習を行っていた際に生かされることとなります。ある日、職員室で先生方が「小伊藤山公園には慰霊碑があるが、なぜ山もないのに“小伊藤山”という名前なのだろう」と話題にしていました。Aさんはその先生方に、「かつてそこには小山があり、防空壕が掘られていました。しかし八幡大空襲によって約300人もの尊い命が失われ、戦後に山は取り壊されて更地になったそうです」と説明しました。さらに、「その防空壕の模型は平野市民センターに展示されています」と伝えることができました。



もしもAさんがいなかったら、その中学校では、かつて地域を襲った大空襲や校区内にあった小伊藤山防空壕、多くの犠牲者の歴史が十分に知られないままになっていたかもしれません。語り継ぐことの大切さを改めて感じます。まさに「継続は力なり」です。しかし近年は、戦争体験を直接語ることのできる方々が年々少なくなっています。そのため、貴重な証言を映像として記録し、次世代へ受け継ぐ「映像遺産」として残していくなど、新たな取り組みが求められています。

NO.18につづきます

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！

///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

